



JAゆうべつ町

JAゆうべつ町広報誌

平成26年1月発行 通巻119号

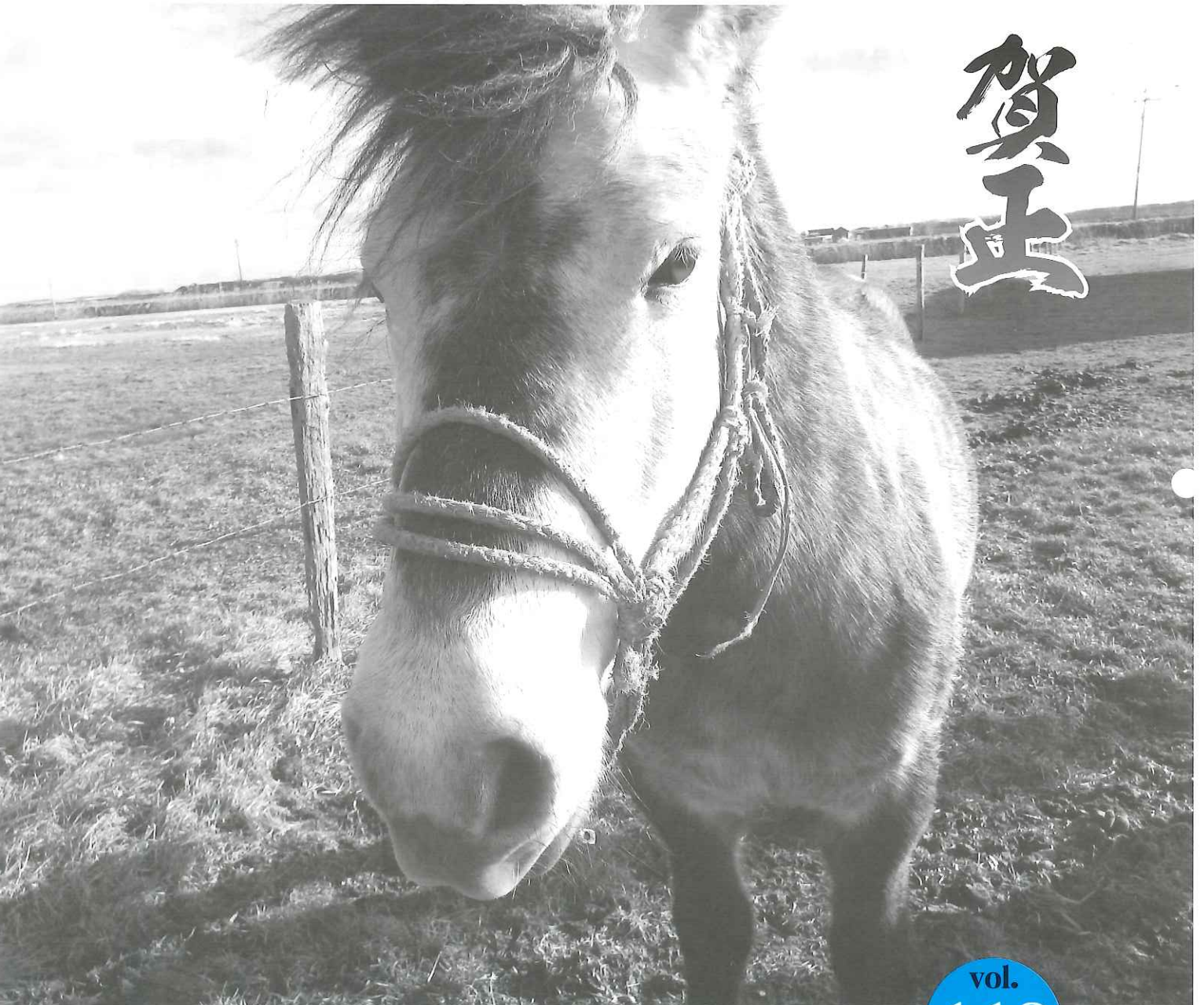
KAGAYAKU TSUBASA

輝く翼



湧別町の空に飛ぶ白鳥を見た時、私は素敵だなと感動しました。「JAゆうべつ町」が飛躍する事を願い、群れをつくり大空に羽ばたく真っ白な白鳥の様に、気持ちを新たに一致団結して前へ大きく前進する願いを込めてデザインのイメージをしました。そして皆さんが愛読するにあたって、優しく温かい気持ちになれます様にと虹の橋を架けました。先頭を飛ぶ真ん中の白鳥にはリーダーと言の意味があり、冠を付けてみました。

イメージデザイナー スワン



賀正

今年は午年よろしくね! (川西OKポニー)

2014.1

vol. 119

平成26年度 新年にあたり

湧別町農業協同組合

代表理事組合長 友澤勇司



新年あけましておめでとござい
ます。

平成26年の輝かしい新年を、ご
家族とともに迎えられた事を心か
らお慶び申し上げます。

昨年は春先からの天候異変によ
り、3月には暴風雪で尊い命が奪
われ、農作業が始まる4月下旬か
ら52年間で最も日照、気温の低い
状態が続き、ビート移植、デント
コーン播種が遅れ生育に気がかり
なスタートとなりました。

牧草の生産量、品質にも影響が
出た1年となりました。安定した
生産をする為にも自然から学ぶ営
農計画に取り組むことが農業経営
に求められていると思います。

農業政策は大きな転換期を向か
え、国に対して新たな経営安定対

策、多面的機能の直接支払制度、
担い手、農地対策等を要請してい
る中、産業界競争力会議において、
急速な農業改革を求めた議論が、
地域農業の仕組みを変えてしま
うのではないかと不安が広まってい
ます。

TPPについては、交渉参加へ
と進んだ政府に反対をするととも
に、国会での決議を守り、次の担
い手が生産意欲のもてる持続可能
な北海道農業の確立が必要と考え
ます。

昨年を振り返りますと、天候の
影響と田安などにより生産コスト
が上昇し、農業経営は一昨年より
所得が減少しています。生乳生産
は前年対比1.25%増の660
00トンとなりました。今後配合
飼料の高値が続くと予想されるた
め、植生改善に取り組むこととい
たします。

小麦は、一昨年の長雨により播
種の遅れと春先の天候不順から3
年続けて計画収量を確保すること
が出来ない残念な結果となりまし
たが昨秋の播種が適期に行われ、
今年に期待をすることがあります。

ビートは移植の遅れが収量に影
響が出たため、作付面積が年々減

少していますが、26年度から基準
糖分と交付単価の見直しが決ま
りました。地力維持のため、耕畜連
携、交換耕作、南瓜スイートコー
ン等と輪作体系を守り、収益向上
と安定生産への取組を願うとも
に、収益性の高い作物栽培への誘
導にも取り組んでまいりたい。

為替の変動により、農家経済が
その影響から脱することが出来な
い状況が続いております。経営規
模、家族経営、法人経営と経営ス
タイルが多様化する今日、食料生
産という目的を同じくして、JA
への結束を強め、協同活動を柱と
し、安全、安心な農畜産物の生産、
供給の取組を展開してまいります。
農協運営については、中期改善
計画に基づき3年目も計画を上回
る実績で推移しており組合員の協
力にお礼を申し上げます。

農業振興計画の実践と、中期経
営改善計画の達成に向かって、力
強い湧別農業を築くことを目指し、
皆さまのご協力をお願い申し上げ
ます。

本年が皆様にとりまして、平穩
で豊穡の年となりますよう、御祈
念申し上げ新年のご挨拶といたし
ます。

謹賀新年

湧別町農業協同組合

代表理事組合長 友澤 勇司

副 組 合 長 坂東 守

理 事 畑 正保

理 事 羽田 英夫

理 事 上田 範幸

理 事 松下 真二

理 事 佐藤 茂

理 事 中塚 和彦

理 事 野田 直人

理 事(学経) 小幡 敏

理 事(学経) 羽田 剛

代 表 監 事 加藤 誠一

監 事 高橋 武

員 外 監 事 柴田 勉

執行委員長 齊藤 浩一

副委員長 横尾 司

副委員長 多田 明雄

書 記 長 多田 明雄

JAゆづべつ町女性部

部 長 越智 祥子

副 部 長 水谷 利子

副 部 長 長岡みどり

JAゆづべつ町青年部

部 長 加藤 勇

副 部 長 本間 義輝

副 部 長 如澤 厚

新しい年を迎えて

網走農業改良普及センター

遠軽支所 支所長 五十嵐強志



新年あけましておめでとござ
います。

輝かしい新年をご家族お揃いで
お迎えのことと心からお慶び申し
上げます。

さて、昨年から日本の農政では
TPP参加交渉、米政策や経営所
得安定対策の見直しなど大きな転
換期を迎えています。一方、農業
生産に大きく影響する気象に関し
ても、近年では予想をはるかに超
える暴風雪や台風・豪雨などによ
る被害が多く発生し、異常気象と
される気象変動にも対応していく
ことが求められております。

昨年の湧別町の気象及び作況を
振り返りますと、融雪期は平年よ
り3日早まったものの、4月下旬
からの降雪を含む天候不順で、は
種・植え付けが10日から2週間程

度の遅れとなりました。5月から
9月までの平均気温の積算は平年
比102%と平年並、降水量は平
年比94%、日照時間は平年比90%
と少ない年でした。農作物全般に
渡って、春の天候不順と6〜7月
の少雨による影響を大きく受けた
年でありました。

秋まき小麦では、穂数不足と登
熟期間の短縮による減収が心配さ
れましたが、皆さんの生育に応じ
た肥培管理の実践によってほぼ平
年並の収量となりました。26年産
に向けても融雪促進と起生期以降
の生育に応じた栽培管理が重要で
あります。

てんさいは春のは種・移植遅れ
と6〜7月の少雨の影響を大きく
受けましたが、収量は平年並で糖
度は平年よりやや高めとなりました。
た。

飼料用とうもろこしのは種作業
は遅れたものの生育は回復し、生
収量では平年並、ほ場間の登熟む
らが大きく乾物収量ではやや少な
めとなりました。牧草は6〜7月
の少雨の影響を著しく受け、1番
草は減収、2番草は少雨で伸びず
に収穫が遅れ、品質もほ場間でば
らつきが大きく、牧草の確保に大

変苦勞の多い年となりました。収
穫された粗飼料の栄養価の確認と
きめ細かな給与管理に努めること
が不可欠な技術であり、今年も安
定した生乳生産に向けた取組を続
けられるようお願いいたします。

湧別町では安定生産に向けた営
農支援システムとして、2カ所の
TMRセンターが稼働しており、
土・草・牛づくりへの意欲的な取
組によって町全体の生産向上なら
びに地域づくりに成果を上げられ
ています。

これからは更に皆様と関係機関
との協働によって、次世代を担う
人材の育成確保をはじめ、規模拡
大への対応など持続的な農業経営
が可能となる体制づくりへの取組
を一層強化していくことが必要で
あります。

農業改良普及センターでは、活
力ある地域農業づくりのために職
員の総合力を活かし地域の課題に
取り組んでまいりますので、皆様
のご協力をお願い申し上げます。
皆様のご健勝と豊穰の秋を共に
迎えられることを心からお祈りし、
新年のご挨拶といたします。

酪農生産部会

部 会 長 多田 智弘
副 部 会 長 小野 悟

畑作生産部会

部 会 長 井上 豊
副 部 会 長 三浦 孝司
副 部 会 長 小野 裕一

湧別町麦生産組合

組 合 長 遠藤 義美
副 組 合 長 三浦 孝司
副 組 合 長 渡辺 豊

流水とうもろこし生産組合

組 合 長 井上 豊
副 組 合 長 阿部 善夫
副 組 合 長 加茂 一郎

農業受委託連絡協議会

会 長 中谷 友則
副 会 長 上田 範幸

湧別改良同志会

会 長 鈴木 聡
副 会 長 山田 和弘

湧別農協青色申告会

会 長 小野 信一
副 会 長 山崎 伸司

酪農ヘルパー組合

組 合 長 理事 久保 隆幸
副 組 合 長 理事 山崎 伸司

湧別町乳牛検定組合

組 合 長 理事 本間 保利
副 組 合 長 理事 多田 健一

平成26年の 年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、希望に満ちた平成26年の新春を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。昨年の北海道農業は、天候不順により一部地域で農作業や生育の遅れが生じ、台風や大雨等の被害にも見舞われました。そのような中、各種課題を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに対して、改めて敬意を表します。

平成25年は、国内外ともに、まさに激動の年でありました。

TPP交渉につきましても、3月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、関係機関・団体と連携をはかりながら、各種運動を展開致しました。かねてより懸念していたとおり、情報開示が極めて不十分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明な状況が続いておりますが、自民党並びに衆・参農林水産委員会の決議を順守し、状況によっては脱退も辞さない覚悟のもと、それぞれの

国の事情に十分配慮した対応がなされるよう、政府・与党への強力な働きかけと併せ、国民世論形成に向け粘り強い運動を展開していく必要があります。

過般、政府は我が国農政の柱のひとつである米政策を大きく転換し、それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設等がなされました。短兵急な政策転換に対して、生産現場では不安と混乱が渦巻いておりますが、改めて生産現場における取組み状況を十分検証しながら、生産者が意欲と将来展望を持って経営展開ができるよう、より実効性のある仕組みを確立していくことが重要であります。また、政府は成長戦略の実現に向けて、農業・JA改革を課題のひとつに取り上げ、産業競争力会議や規制改革会議等において関連する議論を行っております。これら規制改革の動きに関しては、農業の役割や生産現場の実態に関する基本的な認識が十分でないことによる大きな原因があり、北海道のような農業専業地帯の実情やJAグループの取組み状況等を十分踏まえた議論がなされ、本道農業の持続的発展に資するような政策が確立さ

れるよう、働きかけを強化していく必要があります。

平成24年11月に開催した第27回JA北海道大会において、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議致しました。平成26年度は実践2年目にあたりますが、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、本道農業並びにJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今であります。今一度足元を見つめ直し、生産者の方々はじめJAグループ関係者の意志と知恵を結集した中で各種課題を乗り越えていくという強い信念と実行力が求められています。現在の地域農業やJAの基盤を築いた我々の先人も、その時々々の時代背景のもとで、さまざまな困難に立ち向かってきたものと存じます。当然のことながら、JA・連合会も「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の努力を傾注していかねばなりません。

さて、過般、日本の「和食」がユネスコ（国際教育科学文化機関）の世界無形文化遺産に登録されることが決定いたしました。我が国の食文化の素晴らしさが世界的にも認知されたわけですが、そのことは、素材である我が国の農畜産物が評価されたといっても過言ではなく、日本の食料供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。国民の命に直結する農業は、我々の先代が永きにわたり、労苦を惜しまず築き上げてきたものであり、その役割・重要性は将来にわたり、いささかも変わるものではありません。農業は、国家百年の計に立った中で、将来にわたり引き継いでいくべき重要な産業であり文化であります。

今年の干支は、午年（うまどし）です。予断を許さない情勢が続いておりますが、馬のごとく力強く、また、さっそうと駆け抜けていく気概をもって頑張りましょう。結びになりますが、本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。

地区別営農懇談会開催

11月25日～27日、湧別町農協本所と芭露支所において、平成25年度事業における経過報告及び26年度営農方針を議題とした営農懇談会が開催されました。

今年度の出席は本所47名・支所23名の合計70名で昨年より8名多い出席となりました。

報告事項としては、生乳の状況、畑作関係収量状況、牧野事業の概要、湧別農業サポート公社事業概要、クミカン経営診断を説明し、事業実績を報告致しました。

また、協議事項として、平成26年度営農方針の説明を行い、組合

員からの出された意見を集約し、来年度に向けた営農方針を確認しました。

また、営農計画協議を12月9日～19日に組合員様方々のご理解の元おこないます。



感謝込めて80歳記念品贈呈

12月5日、友澤組合長と野田参事は、これまで湧別町の農業振興と発展にご尽力いただいた、満80歳（昭和8年生まれ）の方々に感謝の気持ちを込めて個別に訪問し記念品の贈呈を行いました。

記念品の贈呈者は次の通りです。
（敬称略）

- 岩佐 トシ子（東栄農事組合）
- 笠間 榮一（東農事組合）
- 友澤 春子（大地農事組合）
- 福井 浩一（開拓農事組合）
- 加茂 澄子（新上芭露農事組合）
- 仲 房子（計呂地新和農事組合）



東京・伊豆箱根・富士山を巡る五日間

～芭露支所トラベルプラン～

今年で24回を数えるトラベルプランの旅は東京・伊豆箱根・富士山を巡る5日間と題し、11月4日～8日の日程で19人が参加されました。

羽田空港に到着後、世界一の高さ634mを誇る東京スカイツリーに昇り東京の街並みを眺めました。天望デッキ350mからの眺望は息をのむような絶景が広がっていました。夜には屋形船に乗り出来たての天ぷらに舌鼓を打ち、普段、見ることのできない水上からの東京の夜景を堪能することができます、その素晴らしさは今でも脳裏に焼き付いています。

旅行行程では、下田（了仙寺）に行く途中に、予定を変更「みかん狩り」に挑戦し、もぎたての味を参加者全員で楽しみました。

堂ヶ島での遊覧船や芦ノ湖遊覧で絶景を望み、大涌谷・昇仙峡で自然を堪能、鎌倉の大仏・鶴岡八幡宮・武田神社などパワースポットを巡る事ができました。

2013年6月にユネスコの世界文化遺産に正式登録された「富

士山」。世界的な名山として数々の絵画や和歌のモデルとなる景観に加えて、日本の象徴から世界の宝となった富士山の五合目まで行くことができました。

観光名所を、これでもかと詰め込んだ充実の5日間でした。

（報告）支所金融共済課 村西



史蹟了仙寺 伊豆下田 2013.11.6

去る、11月5日から7日の2泊3日で、定期総会兼温泉保養が今年も「塩別つるつる温泉」にて会員70名参加のもと盛大に開催されました。

井戸会長の挨拶から始まり、議長には鎌田雅彦氏が選出され、提出議案が全件可決され無事総会が終了いたしました。

午後6時からの懇親会では、来賓の友澤組合長より、農業・農協情勢及び農産物の輸出等を踏まえた挨拶を賜り1日目の懇親会が始まりました。例年通り、川西の小谷喜一郎さんの名司会でピン



ゴ大会が大いに盛り上がり、カラオケ大会と楽しいひと時過ぎしました。

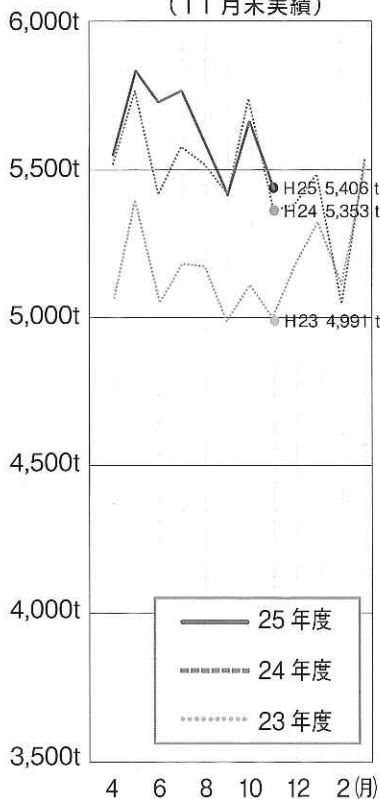
2日目の午前中には、映画鑑賞、パークゴルフ、山の水族館と各々が大いに満喫していました。午後からは、恒例の花札大会と映画鑑賞を開催しました。

2日目の夜も、ビンゴゲームとカラオケで最後の懇親会ということで大いに楽しい温泉保養を過ごしました。

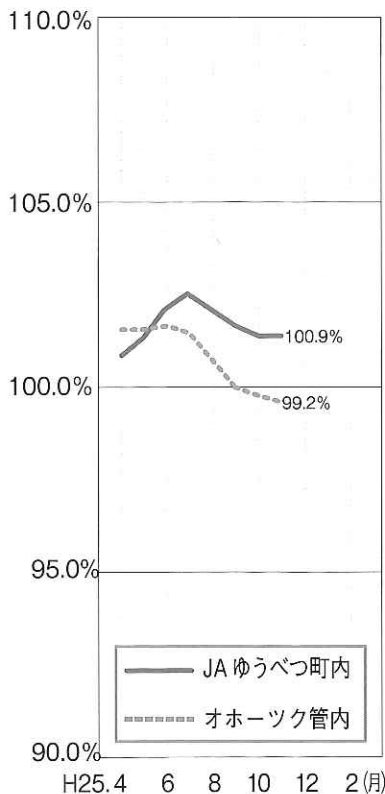
二次会、スナックでの三次会と沢山お美味しいお酒を頂きました。会員の皆様におかれましては、これからも元気で来年も楽しい温泉保養に行く事を楽しみに待っています。

平成25年度 生乳出荷状況について

JAゆうべつ町生乳出荷乳量推移
(11月末実績)



生乳出荷乳量との前年比較



第29回定期総会兼温泉保養

芭露支所利用者年金友の会

芭露支所利用者年金友の会(中谷定雄会長)は、12月5日～6日の日程で、温根湯温泉「大江本家」にて定期総会を開催しました。

266名の会員数となる芭露地区年金友の会は、会員相互の親睦をはかり、健康で楽しい人生と明るい地域社会づくりを目的とし、ゲートボール大会やパークゴルフ大会、旅行定期積金「トラベルプラン」等を企画し運営しています。

本年の総会は72名の会員が出席し、議長の越智豊さんの進行により提出された議案すべて可決しました。



農協 お知らせ 版

平成25年度 第11回理事会
平成25年11月20日開催

報告事項

- ①オホーツクJA組合長会
 - ②中間棚卸の結果について
 - ③北見地区甜菜受渡状況と常任委員会の開催について
 - ④湧別地区年金友の会総会
 - ⑤畑作生産部会
 - ⑥酪農生産部会
 - ⑦コンプライアンス委員会の開催について
 - ⑧遠軽厚生病院運営委員会
 - ⑨北見地区酪農畜産対策委員会
 - ⑩農業予算対策に係る中央要請運動
 - ⑪農家経済改善対策役員研修会
 - ⑫管理専門委員会
- ## 協議事項
- ①組合員の異動について
 - ②平成26年度営農方針（案）について
 - ③贈与税納税猶予に係る債務保証の解除について



普及センターより

野菜

【次年度のほ場準備は万全に】

本年は4月下旬以降の低温・降雨・降雪により春先の玉ねぎなど移植作業が大幅に遅れました。

前年のほ場管理（悪条件での耕起等）によっても作業の進捗状況が変わった事例も多く見られました。また、8月は月間降水量が平年の二・六倍（遠軽アメダス）となり排水不良ほ場で停滞水による湿害等が見られました。

排水対策を含めた今後のほ場準備が重要です。

ア 透排水性の改善

大型機械の踏圧により、透排水性が低下傾向にあり

- ④規程類の改正について
- ⑤(有)アグリサポートぼうとうに対する飼料自給力強化支援事業に伴う貸付について
- ⑥年末手当の支給について
- ⑦平成25年度決算見込みについて

ます。有機物投入による改善の他、サブソイラ等による心土破砕を実施し物理性改善に努めましょう。

イ 排水路の点検・整備

近年、局地的な豪雨の頻度が多くなっています。土砂の流亡等で排水路の機能が低下していないか、降雪前に暗渠の出口や明渠の点検・整備を行いましょう。

ウ ほ場条件に応じた耕起の徹底

大型機械の普及に伴い、ほ場が十分に乾いていなくてもプラウ耕など機械作業が可能になっていきます。しかし、無理な機械作業は踏圧や練り返しを引き起こし、透排水性の悪化を招きます。ほ場毎の乾き具合を確認し、耕起の実施を判断しましょう。

エ 有機物の投入

野菜づくりの基本は「土づくり」です。堆肥等の有機物を投入し土づくりに努めましょう。

オ 緑肥のすき込み

緑肥を作付けしたほ場では、緑肥が十分に分解されるよう、土壌条件が良い時期にすき込み作業を行います。

カ 土壌診断の実施

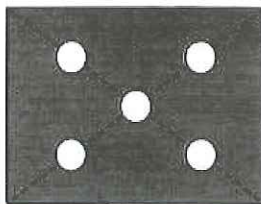
「土いっぺん」のためには、土壌の状態を知ることが第一歩となり

ます。特に土壌pHや肥料成分(リン酸・石灰・苦土・加里など)の過不足は、野菜の収量品質に大きな影響を与えます。次年度に向けて、土壌診断を実施しましょう。

診断結果の活用は、近年値上がりが続く肥料コストの低減にもつながります。

ほ場からの土壌採取は、対角線に5ヶ所から採取し、混合して1kg程度に土の量を調整して下さい。採取する深さは作土深(20cm程度)で、一定の幅で上下均等に採取して下さい。

対角線採土法



採土方法

